

高松発のテイクアウト専門のアイス店が全国に拡大している。2022年春に高松市と岡山市で直営店が開業し、今春以降に岐阜や山梨などの5県でフランチャイズチェーン（FC）店がオープンした。地方のロードサイドにある数坪の狭い土地で開業できることなどが強みだ。24年春以降も新店開業が控え、冬の閑散期を補うドーナツを開発中だ。

アイス店の名称は「月曜からアイス」で、高松市で居酒屋を運営するNOBISIRO（同市）の浜田晋平社長が開業した。最大の特徴は営業時間と立地条件だ。平日の営業は夕方からで、深夜0時もしくは翌日の午前1時まで。仕事帰り

高松発アイス店、地方都市にFC拡大



月曜からアイスを仕掛けた浜田社長（高松市）

開店は夕方、シメ需要に狙い

の小腹を満たしたい人の需む。全店とも週末の開店は要や、夕食後にアイスで、シ午後2時からだが、閉店時める」といった利用を見込 間は平日と同じだ。

店舗面積は5坪（約16・5平方尺）前後と小さく、運営が可能だ。ターゲットは駐車場を併設する地方都

市、数人の従業員で店舗 社長は「大都市圏でのFC加盟の希望者もいたが断った」と話す。

直営2店舗の採算は「苦戦している」（浜田社長）

現在の年間の売上高は高松市で経営する居酒屋1店舗とコワーキングスペースのほかに、月曜からアイス事業を含めると1億円弱。ドーナツブランドの追加で年間1億2000万円に引き上げる計画だ。

市ロードサイドで、狭小地を生かしたビジネスとして店舗網を拡大している。浜田社長は22年11月に事業会社「月曜からアイス」を設立し、同時期にFC専門のユーチューブチャンネルで情報発信を始めた。FC店の第1号店を4月に岐阜市に開業させ、5月には埼玉・新潟・山梨の3県、7月には青森県にも設けた。地方都市をターゲットとし、現時点では東京都や愛知県、福岡県や兵庫県などは出店予定がない。浜田社長は「ドーナツやシューク



「月曜からアイス」は夕方から深夜にかけてのアイス需要取り込みを狙う

社長は「大都市圏でのFC加盟の希望者もいたが断った」と話す。直営2店舗の採算は「苦戦している」（浜田社長）現在の年間の売上高は高松市で経営する居酒屋1店舗とコワーキングスペースのほかに、月曜からアイス事業を含めると1億円弱。ドーナツブランドの追加で年間1億2000万円に引き上げる計画だ。浜田社長は建設業に従事後、香川県丸亀市で7年ほど居酒屋を運営。高松市の居酒屋はコロナ禍の20年秋に開業させ、月曜からアイス事業を立ち上げた。深夜帯のアイス専門店では「21時にアイス」が業界の先駆けで、全国に数十店舗を展開している。（高松支局 亀井慶一）